

V 登録罹患者の5年相対生存率

本集計の対象は、2002年1月1日から2002年12月31日までの間にがんと診断された者であり、胃、大腸、肺、乳房、子宮の各部位について、男女別、受診動機別に相対生存率を算出した。また、食道、肝臓、前立腺、腎臓については、男女別に相対生存率を算出した。

相対生存率は、がん以外の死因により死亡した罹患者情報を把握していない場合、がん以外による死亡を補正するものであり、一般住民群について生命表から求めた期待生存率に対する実測生存率の比である。

$$\text{相対生存率} = \text{実測生存率} / \text{期待生存率}$$

算定の条件として

- 1) 死亡情報によって登録室が初めて把握した罹患者（DCN）で生前の医療情報を得ることができた補充届出罹患者は、診断日により対象とした。
- 2) 死亡情報のみで登録された罹患者（DC0）は除外した。
- 3) 上皮内がんのみの罹患者は除外した。
- 4) 多重がんの罹患者は、第一がんのみを集計対象とした。

また、第一がんが上皮内がんで、第二がんが浸潤がんの場合は第二がんを採用した。

図21に部位別の5年相対生存率を示した。

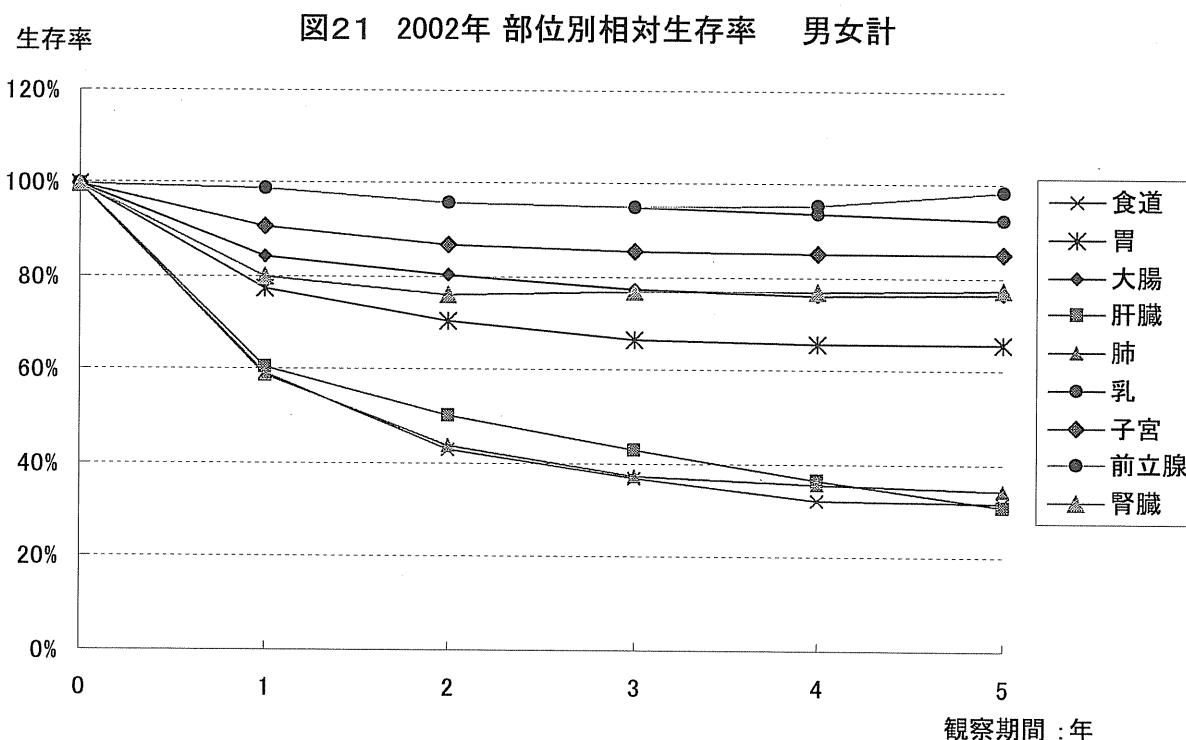
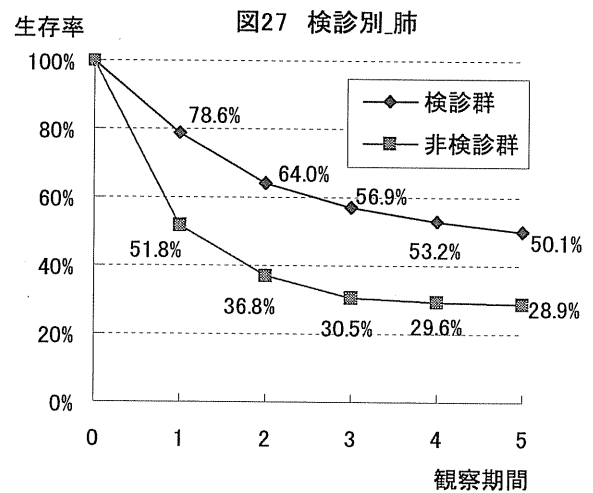
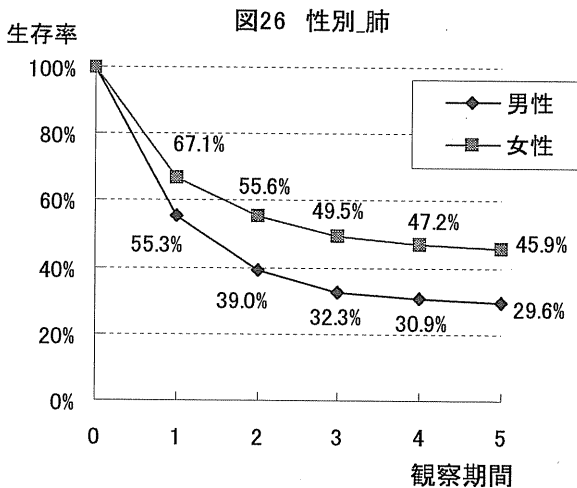
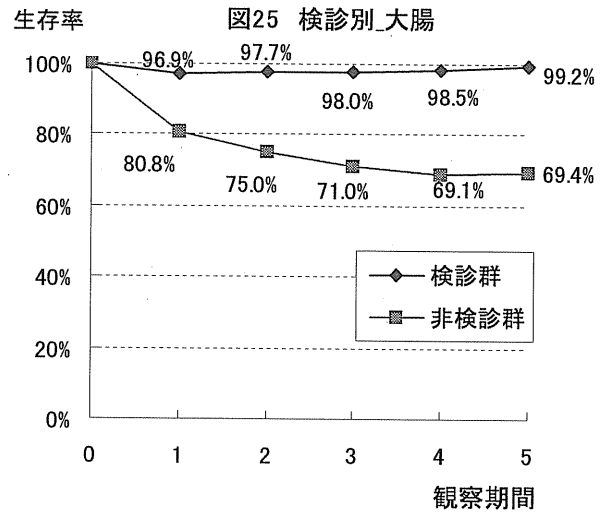
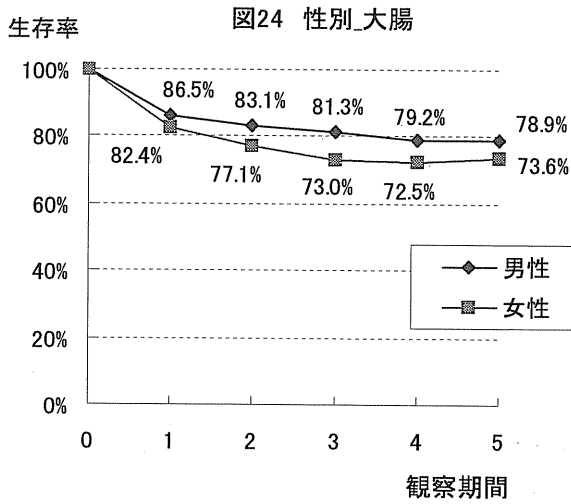
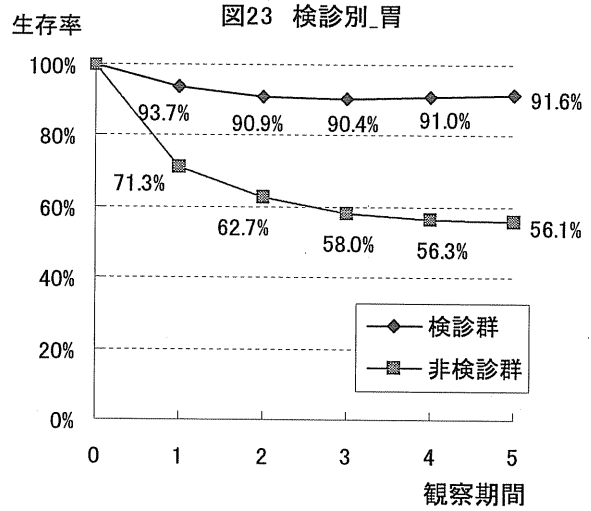
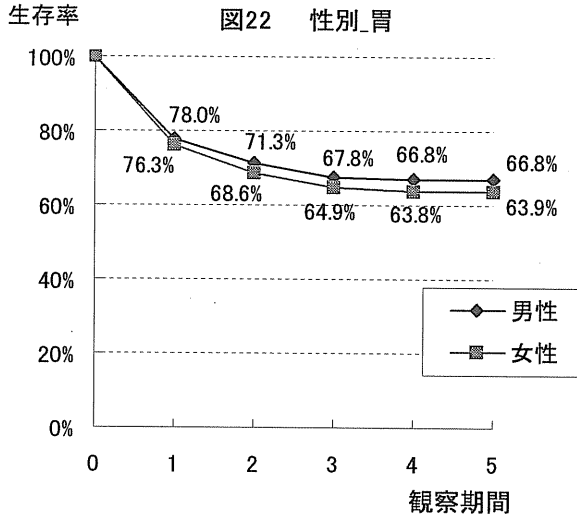
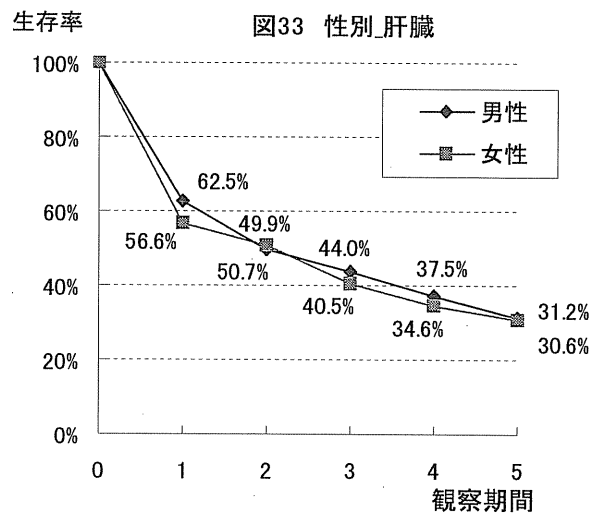
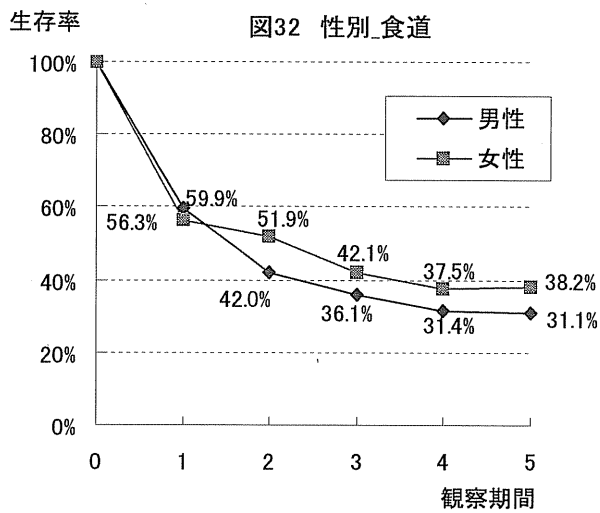
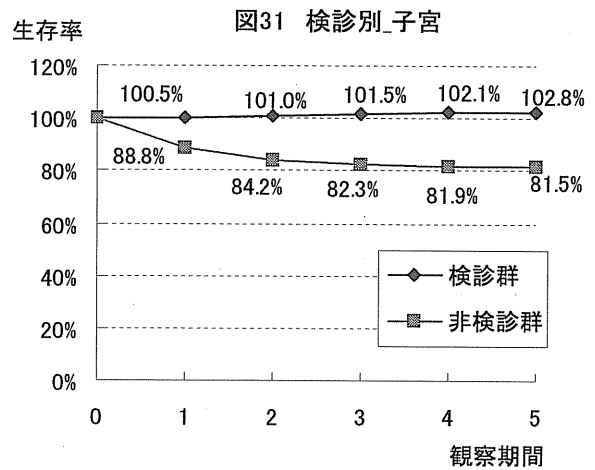
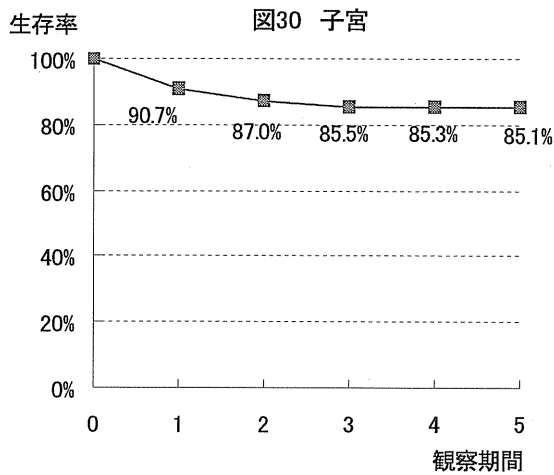
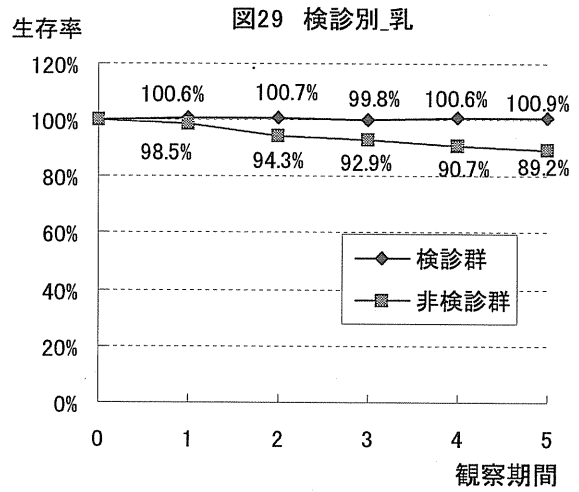
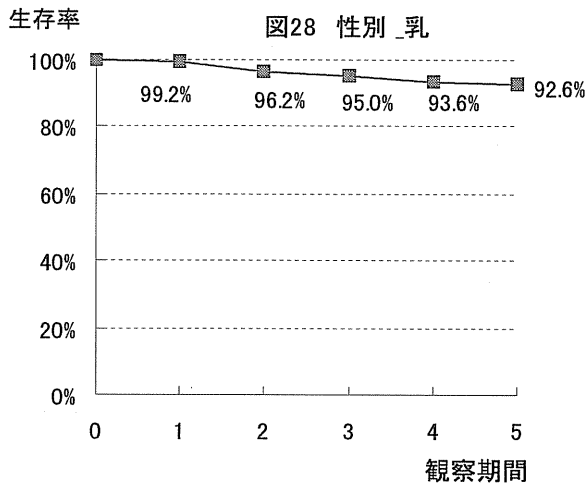
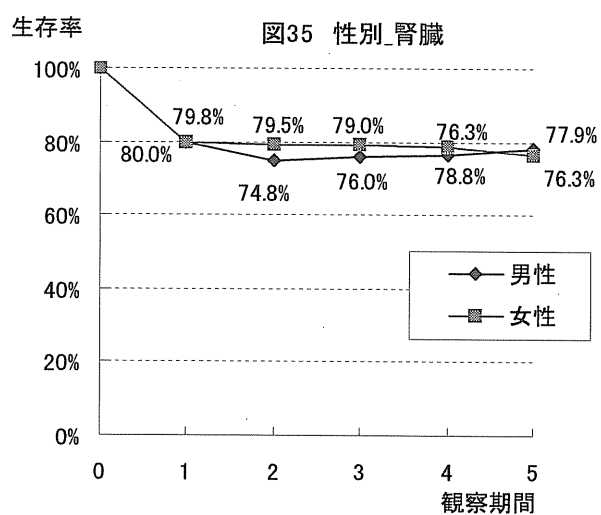
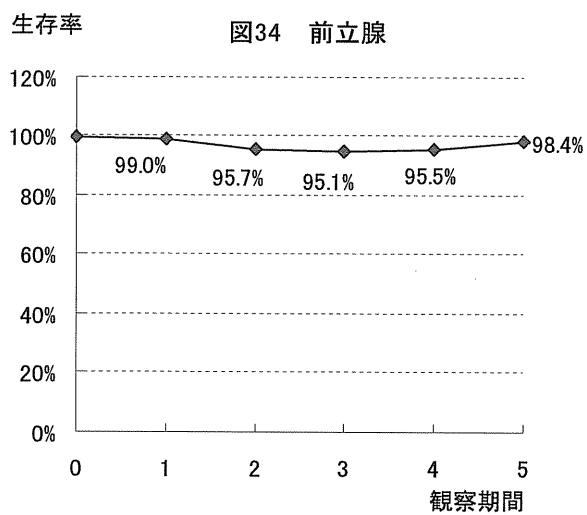


図 22～35 に、部位別にそれぞれ男女別の 5 年相対生存率を示した。
 胃、大腸、肺、乳、子宮の 5 部位と全部位に関しては受診動機別での 5 年相対生存率も示した。

すべてにおいて検診群の方が非検診群比べ 5 年相対生存率は高い。







【参 考】 部位別5年実測生存率を示した。

2002年 部位別実測生存率(性別)

部位・性別		生存年数	1年	2年	3年	4年	5年
食道	男		58.3	39.7	33.1	27.8	26.5
	女		55.0	50.0	40.0	35.0	35.0
胃	男		75.5	66.8	61.5	58.4	56.0
	女		74.2	65.2	60.2	57.7	56.3
大腸	男		83.9	78.2	74.1	69.7	67.0
	女		80.0	72.9	67.2	64.9	63.9
肝臓	男		60.5	47.0	40.2	33.2	26.6
	女		54.8	48.1	37.5	31.2	26.9
乳	女		98.1	94.1	91.7	89.3	87.1
子宮	女		89.5	84.8	82.5	81.3	80.1
肺	男		53.1	36.2	29.0	26.7	24.6
	女		65.2	52.7	45.9	42.9	40.9
前立腺	男		94.4	87.0	82.4	78.3	76.3
腎臓	男		77.6	70.4	69.4	67.3	66.3
	女		77.8	75.6	73.3	71.1	66.7

2002年 検診群部位別実測生存率(検診・非検診別)

部位・検診群		生存年数	1年	2年	3年	4年	5年
胃	検診群		91.7	86.8	84.1	82.1	80.1
	非検診群		68.9	58.7	52.5	49.3	47.3
大腸	検診群		94.8	93.4	91.3	89.3	87.2
	非検診群		78.2	70.4	64.7	60.9	59.0
肺	検診群		76.5	60.8	52.7	48.1	44.2
	非検診群		49.8	34.2	27.4	25.7	24.2
乳	検診群		100.0	99.5	97.8	97.8	97.3
	非検診群		97.2	91.8	89.2	85.7	82.9
子宮	検診群		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	非検診群		87.4	81.8	79.0	77.6	76.2